鷲羽山（わしゅうざん）からの備讃瀬戸（びさん）
（岡山県倉敷市）

塩飽諸島など備讃瀬戸の島々の先に、おにぎり山が特長の讃岐平野が眺められます。瀬戸内海国立公園の核心となる「多島海景観」が発見され、日本で最初の国立公園指定への決め手となった展望地です。

せとうちの風景

多島海景観

大小727の島々が点在する瀬戸内海。同じ場所から眺める風景も、季節や時間を変えると全く違う姿を見せてくれます。また、船から見る流れゆく島影の風景は、古くから海外の方に賞賛されてきました。

備讃瀬戸からの夕景
（香川県坂出市）
船や海沿いからは、ゆっくりと島に沈みゆく夕景が眺められます。

因島公園から
芸予諸島を望む
（広島県尾道市）

来島海峡（くるしま）一望（愛媛県今治市・大島）　亀老山（きろうさん）展望台からは芸予諸島・来島海峡が一望でき、瀬戸を行き交う帆船や潮流の速さが変わる潮目を見ることができます。

鹿島の段々畑
（広島県呉市）

平地の少ない島では、石垣を積み上げた段々畑で作物を育てます。
かつては瀬戸内の多くの島でみられた風景です。昔は山頂近くまで段々畑が続き、斜面いっぱいに積まれた石垣はまるで要塞のようでした。段々畑は少しずつ減り、放棄畑は森へと、人の暮らしとともに島の風景も少しずつ変化しています。

瀬戸内海に浮かぶ筏
（岡山県瀬戸内市）

波の穏やかな湾内や灘では、牡蠣や海苔などの養殖筏が浮かぶ風景が見られます。人の暮らしが溶け込んだ風景だけでなく、ここではどんな魚介が獲れるのか、地域の食も想像させてくれるのも筏の風景ならでは。

せとうちの風景

人文景観

瀬戸内は古くから海上交通の要衝として栄え、人が交流することで歴史や文化がうまれ、発展してきました。
今でも残る昔ながらの港町や段々畑、寺社仏閣、白砂青松など、自然とそこで暮らす人の営みが溶け込んだ風景が瀬戸内には残っています。

鹿島に残る島の暮らし
（広島県呉市）

広島県最南端の有人島・鹿島には漁村や段々畑の風景は瀬戸内の原風景として残り、今でも人々の営みが感じられます。

白砂青松（はくさせいしょう）・弓削（ゆげ）の法王ヶ原
（愛媛県上島町・弓削島）

長い年月を経て花崗岩が風化しできた白砂に、青々としたクロマツが映える自然海岸も瀬戸内らしい風景のひとつです。

しまの神社と風景

古くは、法王ヶ原は海の玄関の役割を担っていたため、弓削神社の鳥居は参道ではなく、海に向かって建っています。本殿には見事な立て爪の龍の彫刻がみられ、10月には、だんじりや神輿、奴行列、奉納相撲などが3日間繰り広げられる秋祭りがあります。
島々では、こうした海に向かう鳥居や立派な松林をもつ神社がみられ、豊漁や豊作を願うお祭りが古くから受け継がれ、続けられています。一方で受け継ぐ人が少なくなり、なくなってしまった祭事もあります。

轟音響く鳴門海峡
（徳島県鳴門市）

満潮と干潮時に見られる鳴門の渦潮は、深い海溝と浅瀬、播磨灘と紀伊水道から流れ込む潮の干満の差によってできる速い潮流のぶつかりなど鳴門海峡特有の地形によって発生します。潮汐差の大きい大潮のときには、最大直径20mもの渦が見られます。

せとうちの風景
自然景観

瀬戸内海独特の地形によってできる速く変化に富んだ潮流や渦がうまれる“動”の海域景観。
風化や浸食によってつくられた彫刻のような“静”の山岳景観。
一見穏やかな瀬戸内の中に対照的な自然景観が存在します。

コアマモ場
（広島県江田島市）

“海のゆりかご”とも呼ばれるアマモやガラモが茂る場所・藻場。魚の赤ちゃんが外敵から身を守り、生育する大切な場所です。

国東半島の大不動岩屋
（大分県国東市）

千燈石仏付近の岩山を西不動と呼んでおり、大不動岩屋はその中では一番大きな岩屋です。国東半島で古くから行われてきた六郷満山峯入行のコースをベースに、日本人の原風景を感じながら歩く「国東半島峯道ロングトレイル」としてうまれ変わりました。

能島・荒神瀬戸
（愛媛県今治市）

速い潮流に囲まれた能島は、島全体が要塞の海城。ここは、村上水軍・能島村上氏の本拠地でした。

スナメリが廻遊する阿波島（広島県竹原市）

スナメリ

暖かい海を好み、小魚などを食べる瀬戸内海における生態系の頂点に立つ、ネズミイルカ科の海棲ほ乳類。東は仙台湾から西は有明海まで生息し、瀬戸内海は国内最大の生息地です。

ニホンアワサンゴ

（山口県周防大島町）

周防大島南東部沖で日本最大規模のニホンアワサンゴ群生地や藻場などの優れた海中景観の存在が確認されました。2013年に瀬戸内海で初めてとなる海域公園が誕生しました。

ニホンアワサンゴが生息する周防大島

せとうちの いきもの

大小の島々からなる瀬戸内海には、干潟や藻場、磯や潮汐湿地など多様な生態系が存在します。太陽が降り注ぐ海中には、山から流れ込んだ豊富な栄養塩によって多くのプランクトンが発生し、そこからつながり、さまざまな生きものの楽園へと広がります。

カブトガニ

幼生の頃は干潟に、成体になると水深の深いところに生息します。
2億年以上前から姿を変えていないことから「生きた化石」ともいわれています。

ハクセンシオマネキ

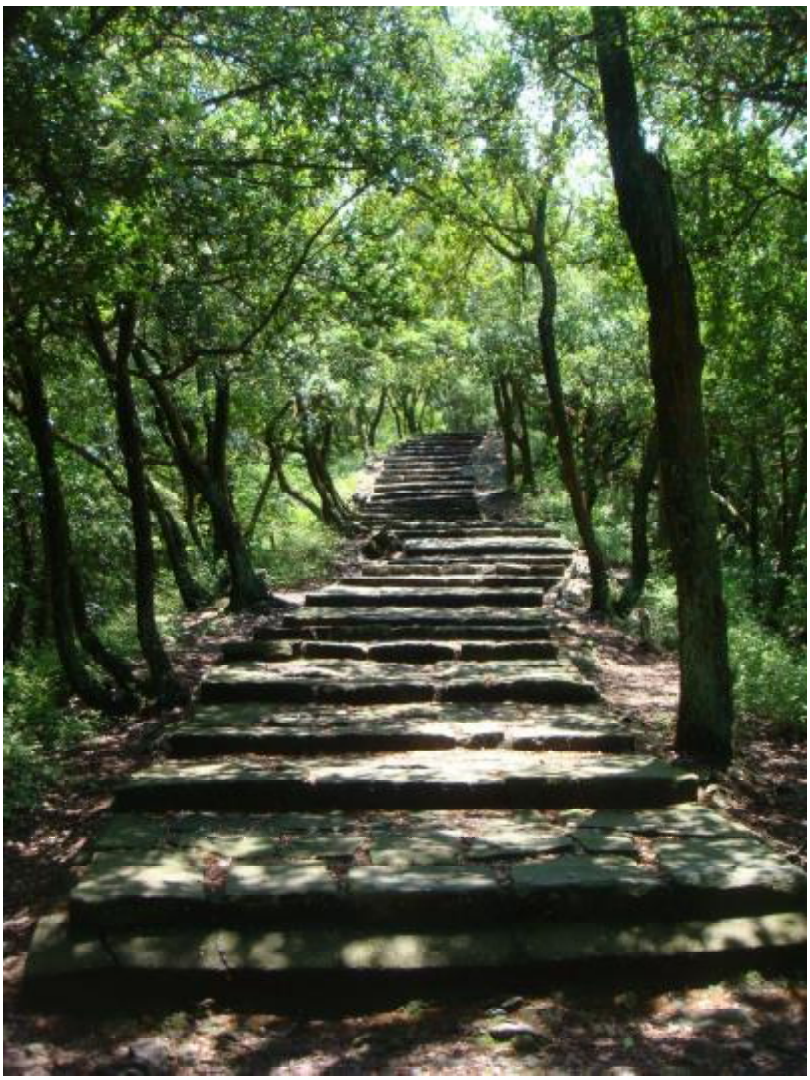
硬めの泥質、砂質の干潟に生息するカニ。特徴的な片方だけ大きなハサミは、オスのみが持っており、繁殖期になると、大きなハサミを振る姿（ウェービング）を見ることができます。

タテジマイソギンチャク

タツノオトシゴ

ウミニナ

スナガニ



沿岸部で見られるウバメガシの純林

かつてはアカマツ、クロマツ林が多かった瀬戸内の沿岸部も、近年は自然災害や松枯れが進んだことによってシイ、カシなど照葉樹林へと植生が移り変わってきました。
このように環境の変化によって植生が移行した地域もあれば、宮島・弥山の針広混交林や昔から残る社叢など貴重な自然林が残る地域もあります。ともに瀬戸内の植生を特徴づけ、また現在の瀬戸内の風景をつくりだす大事な役割を担っています。

志々島・大楠
（香川県三豊市）

小さな島にそびえる樹齢約1,200年の大きな楠。

せとうちの

植　生

瀬戸内の沿岸部では、山地から海岸までそれぞれの環境に適応した植生がみられます。
花や実をつけると、普段の景色に彩りを添え、私たちに四季の訪れを感じさせてくれるだけでなく、その小さく可憐な存在にも気づかせてくれます。

山野や岩場で見られる植物

沿岸部の植生は、四季の到来を告げる風物詩にもなり、また生きものの食草としての役割も担っています。

海浜で見られる植物

強風と乾燥に耐える葉や樹形をした海浜植物は、自然海岸の減少とともに数を減らしつつあります。

湿地で見られる植物

貴重な湿地には、貧栄養など厳しい環境条件に合わせて生育するたくましくも小さな植物がいます。

コバノミツバツツジ

ツメレンゲ

ハマゴウ

スナビキソウ

サギソウ

モウセンゴケ